

令和4年度 第1回山梨県公立大学法人評価委員会次第

【日 時】 令和4年7月7日（木） 14時00分～16時30分

【開催方法】 テレビ会議システム（Teams）

開 会

- 1 県民生活部次長あいさつ
- 2 理事長あいさつ
- 3 議 題

第1部

- (1) 令和4年度及び令和5年度評価委員会スケジュール及び評価方針の確認について

第2部

- (2) 令和3年度第4回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
- (3) 公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領の改正について
- (4) 令和4年度入学者選抜試験の結果及び令和3年度卒業生の就職状況について
- (5) 令和3年度財務諸表等について
- (6) 令和3年度業務実績報告書について
- (7) 第2期中期目標期間に係る業務実績報告書について
- (8) 令和4年度計画について
- (9) その他

閉 会

【配付資料】

- | | |
|---------|---------------------------------------|
| 資料1 | 令和4年・令和5年度評価委員会スケジュール（案） |
| 資料2 | 令和3年度第4回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案） |
| 資料3 | 公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領の改正について |
| 資料4 | 令和4年度入学者選抜試験及び令和3年度卒業生の就職状況 |
| 資料5 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度決算の前年度比較について |
| 資料6 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度財務諸表 |
| 資料7 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度事業報告書 |
| 資料8 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度決算報告書 |
| 資料9 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度監査報告書 |
| 資料10 | 公立大学法人山梨県立大学 令和3年度業務実績報告書 |
| 資料11 | 公立大学法人山梨県立大学 第2期中期目標期間評価に係る業務実績報告書 |
| 資料12 | 公立大学法人山梨県立大学 令和4年度計画 |
| 参考資料1 | 公立大学法人山梨県立大学 第2期中期目標・第2期中期計画対比表 |
| 参考資料2 | 公立大学法人山梨県立大学の業務実績に係る評価基本方針 |
| 参考資料3 | 公立大学法人山梨県立大学の各事業年度の業務実績評価実施要領 |
| 参考資料4 | 公立大学法人山梨県立大学 第2期中期目標期間の業務実績に関する事前評価結果 |
| 参考資料5 | 大学施設の長寿命化計画（改正案） |
| 参考資料6 | 公立大学法人山梨県立大学 第3期中期目標・第3期中期計画対比表 |
| 参考資料7 | 山梨県公立大学法人評価委員会条例 |
| 参考資料8-1 | 公立大学法人山梨県立大学令和3年度業務実績報告書に係る小項目評価表 |
| 参考資料8-2 | 公立大学法人山梨県立大学第2期中期目標期間業務実績報告書に係る中項目評価表 |

令和4年度【第2期】

【審議概要】 ○令和3年度業務実績評価
○第2期中期目標期間業務実績評価

【評価手法】
中期計画の進捗状況等の「項目別評価」とその「全体評価」

【課題】
それぞれの小項目評価の積み上げによる評価手法のため、全体を通じた評価ポイントが見えにくい。

※併せて、評価を全体的に簡素化

令和5年度【第3期】

【審議概要】 ○令和4年度業務実績評価

【評価軸(想定)】 県民とともに歩み、山梨県の更なる発展に寄与することを基本に、中期目標の3つの「基本的な目標」を評価軸とする。

1. 社会の実践的な担い手や指導的な人材の育成
2. 地域が抱える諸課題に対応する研究と地域貢献
3. 自主・自律的な大学運営の推進

【評価手法(想定)】

評価軸を踏まえた、中期計画の進捗状況等の評価を実施

【評価軸】 【評価手法】
※R4年度後半で委員の御意見を伺いながら検討

【スケジュール 4回開催】

7月7日 第1回評価委員会開催 WEB開催 [14:00-16:30]

第1部 ・スケジュール及び評価方針の確認について ※事務局・委員

- 第2部
- ・令和3年度財務諸表 令和4年度年度計画
 - ・令和4年度入試の結果及び令和3年度卒業生の就職状況
 - ・令和3年度業務実績報告書
 - ・第2期中期目標期間業務実績報告書等

8月10日 第2回評価委員会開催 WEB開催 [9:30-12:00]

- ・令和3年度業務実績に関する評価結果(素案)
- ・第2期中期目標期間業務実績に係る評価結果(素案)等

8月24日 第3回評価委員会開催 WEB開催 [10:00-11:30]

- ・令和3年度業務実績に関する評価結果(案)
- ・第2期中期目標期間業務実績に係る評価結果(案)等

9月 9月県議会に報告

年度後半 第4回評価委員会 評価基本方針・評価実施要領を改正

【スケジュール 4回開催】

5月初旬 第1回評価委員会開催 WEB開催 1時間 ※事務局・委員

・スケジュール及び評価方針の確認について

6月末 第2回評価委員会開催 WEB開催 2時間

- ・令和4年度財務諸表 令和5年度年度計画
- ・令和5年度入試の結果及び令和4年度卒業生の就職状況
- ・令和4年度業務実績報告書

7月末 第3回評価委員会開催 WEB開催 2時間

- ・令和4年度業務実績に関する評価結果(素案)

8月上旬 第4回評価委員会開催 WEB開催 1.5時間

- ・令和4年度業務実績に関する評価結果(案)

9月 9月県議会に報告

令和3年度第4回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和4年3月16日（水）午前10時～午前11時40分
- 2 場 所 山梨県庁本館2階県民生活部会議室 他（Web会議による）
- 3 出席者 委員 一之瀬滋輝 徳永保 中村和彦 山口由美子
法人 早川理事長 保坂副理事長 吉田理事 ほか
事務局 小林県民生活部次長 小林私学・科学振興課長 ほか

<委員長及び委員長代理について>

委員長に徳永委員、委員長代理に中村委員が選出され、了承された。

<委員長あいさつ>

県立大学を取り巻く状況、あるいは国公立大学全体を含めましても、大きく制度が変わってきているところ。これまでは、国立大学と公立大学が法人化して、とにかく立ち上げるところでやってきたが、社会が大きく変わっていく中で、国としても大学には社会変革の大きな推進役ということを期待している。

その結果、国立大学の例だが、これまでの中期計画では各大学が自分のやりたいことも含めて中期計画を作ってきたが、今回の第4期の中期計画からは国が指定した項目だけで中期目標・中期計画を作り、それ以外のことは各大学が自由にそれぞれ決められた予算と定員の中である程度自由にしていっていいという形に大きく変わってきている。

また、産業界でもDXという形で変わっていくわけで、そのようなことも含めて、山梨県立大学が県民の期待に応えて、今後の山梨県、そして日本全体の発展に貢献できるようなことを我々は期待している。

その意味では、法人の評価委員会として、県民の期待に応え、そして県政の課題等を踏まえて、議論を進めていきたいので本日はお願いしたい。

それでは議事に入らせて頂く。

<議題>

- （1） 令和3年度第2回及び第3回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、案のとおり了承された。

<議題>

- （2） 公立大学法人山梨県立大学の次期中期計画について

○法人

資料2及び資料3により説明。

○委員長

それでは、今の中期計画の案につきまして、委員の皆様から御意見をお聞きしたい。

○委員

計画案の内容をみると、いくつか「検討する」という表現がみられるが、計画という性質を鑑みると表現として適切であるか。

○委員長

中期計画として、具体的にこの計画期間中にどうするのかという検討を進めた上で何とかするというだけでなければいけない。もちろんプロセスとしては検討する必要があると思うが、そのような形でそこは書き直して頂く必要があろうかと思う。

○委員

看護学部では国家試験合格率 100%を目指すという部分だとか、人間福祉学部では全国平均を上回るような国家試験合格率を目指すという形で数的な目標が設定されている。

しかし、国際政策学部では「真のグローバルな人材を育成する」という数的な目標が設定されていない。現計画では、英語の項目で数字的な目標を掲げていたと思う。英語はコミュニケーションの手段であって目的ではないとは思いますが、一定の数的な目標を掲げることも大事なのかなと思うので、前回同様ではないにしても計画にも織り込んで頂きたい。

次に項目“7番”の入学者の部分で、入学した後で「ちょっと思っていたのと違う」というようなことが学生にはあると思う。県立大学のホームページを拝見して、入学後がイメージしやすいような内容がすごく充実しているなど感じるが、その中に動画があったりすると、よりイメージしやすくなるのではないかと思うので、情報発信というところで、この計画にはあまり関係ないかもしれないが、ぜひ検討して頂きたい。

最後に、就職支援の部分で、就職は入口であるが、一方で退職という出口もある。一般企業の中で、退職を誘発するというか、自分で退職できない人に対して仲介をするような業者が最近数多くあって、要は転職するということに関して自分で言えないから業者に頼んで退職を仲介してもらおうということが増えている。本来ならば、最後までしっかりフォローを行って責任を持ってやめるということが正しい出口だと思うが、そこが出来ていない人が増えているように思う。このような人材を輩出してしまうと、いずれ県立大学の評価にも繋がってきてしまうと思うので、入口を学ぶだけでなく出口も学ぶということも提供して頂ければと感じている。

○委員長

数値目標の部分は、正直言って中期計画の性格上、大学が県に「こういうことをやります」ということを約束するもので、その教育の水準そのものを数字で示すことはかなり難しいように思う。ただ、一方で計画に対する評価ということについて、定量的な評価が可能なものも必要だと思うので、教育の水準そのものを、計画が終了した段階で評価することが可能かどうか、検討して頂きたい。

それから、最後の就職支援のところも、最近では全体としてジョブ型雇用ということが広まっており、今までのように就職したらずっと同じ会社にいるということが少なく、むしろ自分自身の幸せのためにはどんどんキャリアアップ、転職していくということも必要になってくる。自身自身のキャリアアップについてコース設計できる、いわば社会生活を設計ができるような能力を涵養するというような趣旨の表現を入れることでいいのではないかと

思う。

○委員

数値目標に関しましては先ほど委員長のおっしゃった通りで、数値目標として明確になるものは出来るだけ掲げるようにして、そうでなければ質的な評価として目標を立てられた方がいいように思う。

全体的にそのようなことを感じていて、最初の方のアライアンスの中で、教育の部分は今後さらに推進していきたいと山梨大学も思っていて、そのために、まだ解決されてない学年歴や時間割の統一をできるだけ早く出来るようにお互い進めていければと思う。

それから、これは質問になってしまうが、人間福祉学部や看護学部の人材育成については非常に明確になっているが、国際政策学部というのはどういう人材を育成するのかということとところがまだ掘めていないので、明確な御回答を得られればと思う。

3点目は、入学者の受け入れの部分で、高校との連携で、高校生に単位を与えて入学後にその単位を出すと、非常に新しい試みであると感じているが、もしよければ具体的にそれどうやって進めているのかということをお聞きしたい。どの科目で、或いは全科目で実施するのか、どのような授業をどのくらい受講すると単位を得られるのかということをお聞かせ頂きたい。

次に4点目、教学マネジメントの推進体制という言葉がかなり出てくるが、具体的にどのような形で教学マネジメントを進めていくのかをお聞きしたい。

最後、キャリア教育のことに関しましては、非常に大事なところでもあるので、山梨大学のキャリア教育とできるだけ一致した形で進めていければと思うが、その上で地域のニーズをしっかりと掴むということが出来れば良いと思う。

○法人

教学マネジメントに関しては、御指摘頂いたように今学生の授業評価アンケートをベースにした評価はマネジメントを展開してきたところではあるが、さらにもう少し実質的なものが重要だということで、学長直轄の組織として、教学マネジメントワーキングを立ち上げて、そのワーキングが中心となって取り組むようにしたいと考えている。

それから、高校生が本学の授業を学ぶということで、現在10科目について、既に各高校に呼びかけており、令和4年度の前期から高校生が受講する予定になっている。既に60名以上の受講希望者がいるので、現在受け入れる準備を進めている段階である。

○委員長

最後のほうで管理運営とかDXという言葉が出てくるが、他の大学が行っていることを紹介すると、その大学の学生だけが使えるスマートフォンのアプリというようなものを開発しており、そのアプリを使って、学生にセミナーの呼びかけなどを行っている。それに対して、学生がその情報を見たかどうか、参加したかどうかなど確認できるようになっていて、つまり、その大学が学生支援であるとか就職支援に関してこういう働きかけをしたと、それが全部アプリで確認できるようになっている。今すぐには難しいかもしれないが、中期計画の終了時ぐらいまでには、そういうことを始めないと、他大学に追いつけなくなるかもしれない。

それから、教育の質の保証について、今は会議で打ち合わせして、各学部学科で修得目標

など決めていると思うが、多くの私立大学では、そういったことを大学内の業務の情報システムの中に入れていて、その学習、その習得目標とシラバスとの紐づけみたいなことを行い、それを紐づけて書かないと、システムが受け付けてくれないような仕組みになっている。そういう学習成果の可視化や修得目標の明確化といったことが、教員が業務情報システムに入力する段階できちんと整理されていないと、そもそも入力できないということになるので、5、6年後ぐらいまでには計画に書いてあることを実現できるように検討して頂きたい。

それでは、その次に研究に対する目標、国際化に関する目標について法人の方から説明をお願いします。

○法人 資料に基づき説明

○委員

コロナもあって今後の状況が分からない中、物理的に交換留学するという形での国際交流だけでなく、webでの情報交換なども活用しながら何か考えられたのではと思う。

○委員長

その点は、今後留学に限らずメタバース空間を使った教育形態とかいうようなことも開発できると思うと思うが、単独ではなかなか難しい面もあると思うので、ぜひアライアンスなどで新しい教育形態や国際交流について検討して頂ければと思うので、ぜひその辺りも文章に付け加えて頂きたい。

○委員

研究に関して、研究を促進させていく、進化させていくということだが、具体的に教員評価の中で研究区分をどのように扱っているのか。例えば科研費の獲得状況であるとか、或いは質の高い研究、貢献できる研究を行った教員に、何らかのプラスアルファであるとか、評価とそれに対する対応についてお聞きしたい。

○法人

研究に関しては、教員業績評価の中で、教育、研究、社会活動、学内運営という形で4分割して、その中で評価を行っているが、学部によって多少評価基準に差があるので、そこを見直していきたい。

次に若手教員を中心に、例えば学会で評価を受けた教員に関しては、翌年度の研究費にプラスアルファするような仕組みを考えている。

○委員長

学部に応じて評価が変わるというのは当然のことだと思うので、大学の特色を生かしながら、さらに研究の部分も生かしながら評価を深めて頂きたい。

○委員長

今の点については、前回の評価委員会でも紹介したが、私が筑波でやったこととして、まず各学科単位できちんとした定量的評価、組織的な評価を決めて、学科ごと、或いはその分

野ごとに評価を行い、それぞれの単位の平均を超えない限りは全部Bにしてしまうという、低い評価を与えるという厳しいことをやってきたが、そういったことも必要かなと思う。

あと、研究倫理については、今日はDXのことしか言わなくて恐縮だが、最近京都大学とか他の大学で使用しているもので、お金はかかるがAmazonとかMicrosoftがクラウドサービスを提供していて、その研究で使った資料や成果などを全部そのクラウドに格納できるようになっている。それが全て国の研究倫理に則った形になっており、そのアプリを使って確認すると、不正が分かる、不正防止に繋がるというようになっている。研究室に莫大な研究資料を保管することはそのスペースももたないなので、全てマイクロチップ化してクラウドの中に格納しておけば、研究倫理の証明にもなる。ただ、クラウドサービスの中に研究成果自体を入れてしまうことになるので、本当にそれでよいのかなとも思うが、多くの大学が始めているので検討していただければと思う。

それでは次に、地域貢献に関する計画について説明をお願いします。

○法人 資料に基づき説明

○委員長

地域貢献は公立大学として一番重要な部分なので、委員の皆様方から御意見を伺いたいと思う。

○委員

女性が職場を離れないで継続して職業に就ける、女性の県内就職率向上を図っていくような対応も、地域貢献として重要だと思われる。

○委員長

この計画の中では社会人教育というところと、リカレント教育とか生涯学習という言葉しか入っていないが、今では多くの企業は職業を離れないでそのまま勉強するとか、或いはその正規の課程じゃなくても履修生みたいな形で勉強したいとなっている。そういう意味では、もし可能であればリスクリングという言葉をつけ加えれば、産業界や企業の要望に応じていくという姿勢にも繋がるのではと思うがいかがか。

○委員

“30番”の地域への優秀な人材の供給のところ、学生にしてみれば県内・県外関係なく自分の目標に合った企業に就職したいというのももちろんあると思うが、山梨県内の人口減少の歯止めというところも考えた上で、山梨県の良さである東京に近いことだとか、子育てをしながら仕事ができるとか、県でも山梨県内の企業に周知するという取り組みを行っているので、学生も一緒に出来るのではとっていて、そのような県内企業の方々とのマーケティングだけでなく、そこから有用な人材の県内での就職というところも注力して頂けたらと思う。

○委員長

山梨県の良さを周知して、東京などから企業が山梨に移ってくれるような状況というのが

一番望ましいことだと思うので、もちろん県政としても必要な課題であるが、そういった中で県立大学は何ができるのか、なかなか県立大学単独では難しいことではありますが、ぜひご検討いただければと思う。

○委員

社会人教育に関しては、ペンタスという事業が非常に素晴らしいと思っている。せっかく始めるのだから、できるだけ多くの地域の方にこのことを知ってもらい、こんなことが学べる、こんなふうに変えるというところでより良い広報をされていいと思う。例えば地域プラットフォームを構築して、それを基に進んでいくということも大事なのかなと思う。

あとは項目“29番”ですが、高大接続連携という話が出ていますが、例えば、先ほどから出ていた高校生に授業提供するというところもあるが、これも非常に大事な部分で、例えば高校との接続というものを具体的にどのように行うのかということも非常に重要になってくる。

○法人

高大接続に関しては、まず県立大学の教育の中身をよく知ってもらいということが大事なかなと思うので、高校生の履修ももちろんだが、高校の先生を通じて県立大学のことを知ってもらえるように、高校訪問にも力を入れていきたいと思う。

高校生が高校で学んだことを生かしながら県立大学で学んで、地域で活動してもらえりような人材育成ということを高校の先生も含めて一緒に考えていければと考えている。

○委員長

私からも1点質問させて頂くが、冒頭に地域が求める人材を養成する全学的なセンターを設置するというところで書いてあるが、全学的なセンターなので学内から関係する教員を動員すると思うが、これに加えて、例えば県内の産業界の方なども指導スタッフとして活用するとか、或いは県内の他大学の教員も活用するような予定はあるか。

○法人

COC+Rプログラムでは、山梨産業支援機構、観光推進機構、それから山梨総合研究所といった、産業界の代表と言われるような方々に参加して頂いてプログラムを構築してきた。本プログラムをどのように学内外に浸透させていくかについては、センターはその浸透を推進していくことを目的としており、プログラムの構築に関わらず今まで関係して頂いた事業共同機関の皆様にもその推進に参加して頂いて、例えば大学の中に講座を作ってもらったりとかそういうことも含めて、様々な分野の社会人の人たちにももっと参加してもらえりようにしていきたい。

○委員長

ここの部分は県内の方も関心がある部分なので、より明確になるような形で、産業界、企業の方、或いは市町村等が共同でセンターを運営していくということであれば、そういったニュアンスがもう少し明確になるような形で文章にして頂いたほうがいいと思う。

それでは、次に管理運営のところについて説明を頂きたい。

○法人 資料に基づき説明

○委員長

委員の皆様から御意見を伺いたい。

○委員

前回の評価委員会の時にもお話ししたが、未利用地の貸し出しで、せっかく施設があるので検討されていくというところは素晴らしいと思う。

○委員

まず“32番”の部分で、人事評価に関して、前回第二期の計画では教諭の業績評価を生かして人事評価を行うと記載されていたが、今回の計画では職員のみに関して記述されていて、教員はどうするのかという部分が欠落しているというのは少し疑問に思う。

2点目は“34番”で、科研費のことにに関して、前回の計画では計画期間中に申請95件とか採択45件目指すと記載されていたが、今回の計画には数値目標が記載されていないので、ここはどのような評価をするのかお聞きしたい。

それから最後に“40番”に関して、施設の問題は教育の質の保証に関して表裏一体だと考えており、教育内容の改善も必要だが同時に教育環境の整備という部分も非常に大事になってくるので、こちらも県と協力をしながら、より質の高い教育ができるような環境整備というものを行って頂きたい。

○法人

県立大学を法人化する際に、職員の体制が法人化前と変わらずそのまま引き継がれているという現状があり、大学の環境が変わる中で、今の体制のままでいいのかという課題がある。

今回の中期計画の中では、ここを重点的に、本来必要な人員が一体どの程度なのかというところを検証した上で体制を整えていきたいと言う観点からこのような記載になった。

○委員

教員の業績評価に基づいた人事評価ということも非常に大事な部分であり、前計画では教員のことも記載されているので、私の意見としては明記した方がいいと思う。

○委員長

やはり大学なので、教員の人事評価について前回の計画で記載されていたのに今回の計画では全く触れられていないとなると、何もしなくていいのかというように受けとめられてしまう。当然教員の人事評価も行っていると思うので、今行っていることを踏まえた上で表現など工夫して頂ければと思う。

また、施設に関しては、大学設置基準を簡素化する方向で文部科学省も中教審も検討していて、おそらく今年か来年には、大幅に施設設備についての基準はかなり緩和されると思っている。そういった状況の変化を踏まえて対応していただければと思う。以前施設を見学させていただいたが、ラーニングコモンズの教室が、普通教室として使用していたものを転用

したというような状態になっており若干貧弱なので、もう少し工夫が必要かなと思う。これは別に計画に記載までしなくても構わないので。

それでは、それぞれの事項について意見をいただいたが、全体を通じて改めて委員の皆様から、補足とか、この点が足りなかったということがあれば発言をお願いしたい。

○委員

より良い計画にして頂きたいと思う。

○委員

改めてお伝えすることはないが、本日お伝えした内容についてぜひ検討をお願いしたい。

○委員

大変ご苦労されて作られた計画であると感じている。計画なので、この6年間でどのように進めていくのかとか、或いは数値目標が明確になるものを出していくとか大事であると思う。さらにその数値目標を評価する方法で、委員長が最初におっしゃったとおり、国立大学では数値目標を明確に出してということと言われていて、そういったことも進めていけば、よりよい大学の改善に繋がるのではないかなと思う。

○委員長

私の方から最後に申し上げると、中期計画の変更について、変更する際には議会で説明をしなければならないなど結構大変なので今まで県で嫌がっていたかと思うが、社会が大きく変わっている中で計画を途中で変更してもいいように思う。私自身、筑波で企画評価担当の副学長だった際には、3年間か4年間で2回ぐらい中期計画を変更して大臣認可を頂いたが、途中で変更してもいいのだというぐらいの気持ちでぜひやっていただきたい。

中期目標を踏まえて大学でもいろいろ検討して計画を作成していただいたところである。私ども評価委員会として本日委員の皆様から活発に御意見をいただいたので、文言の若干の修正なり追加で済むところもあれば、再度よく検討していただく部分もあるかもしれないが、今日の委員の御意見を踏まえた上で、改めて大学で検討していただき、その上でまた県とも相談させていただき、また私の方とも相談をさせていただければと思う。

各具体的な項目については、委員の皆様にも個別に相談をさせていただくこともあるかもしれないが、全体としては今日の意見を踏まえた上で、法人と県で検討していただいた上で、私に全体としては一任させていただき、そのような方向で計画を完成させていただければと思うがいかがか。

○一同

了

<議題>

●(3) その他

意見なし

以上

公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領の改正について

1 要領改正の背景等

- 第2期中期目標期間への移行時において、中期計画記載項目等の見直しが図られていることから、これに合わせて要領に定める評価に係る項目数についても改める必要がある。

2 要領改正の内容

- 評価の対象となる項目数を次のとおり改める。
 - ・ 小項目 123項目 → 55項目
 - ・ 中項目 46項目 → 32項目
 - ・ 大項目 12項目 → 11項目

※詳細は、別紙「新旧対照表」のとおり。

公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領新旧対照表

新	旧
<p data-bbox="299 338 1347 373">公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領</p> <p data-bbox="914 449 1466 590">平成27年6月12日 山梨県公立大学法人評価委員会決定 <u>令和 年 月 日改正</u></p> <p data-bbox="181 653 350 688">1・2 略</p> <p data-bbox="181 741 626 777">3 項目別評価の具体的方法</p> <p data-bbox="181 787 1466 865">(1) 項目別評価は、次の小項目、中項目、大項目に区分を行う。具体的な区分は別表のとおりとする。</p> <p data-bbox="240 875 1374 1003">① 小項目は、③の大項目に係る中期計画記載項目の<u>55</u>項目とする。 ② 中項目は、①の小項目に係る区分を踏まえ<u>32</u>項目とする。 ③ 大項目は、中期目標の区分を踏まえ<u>11</u>項目とする。</p> <p data-bbox="181 1056 314 1092">(2) 略</p> <p data-bbox="181 1144 418 1180">4・5・6 略</p> <p data-bbox="201 1232 314 1268"><u>附 則</u></p> <p data-bbox="222 1278 409 1314"><u>(施行期日)</u></p> <p data-bbox="240 1325 1457 1360"><u>この要領は、令和4年 月 日から施行し、令和4年4月1日から適用する。</u></p>	<p data-bbox="1635 338 2683 373">公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領</p> <p data-bbox="2270 449 2822 537">平成27年6月12日 山梨県公立大学法人評価委員会決定</p> <p data-bbox="1501 663 1670 699">1・2 略</p> <p data-bbox="1501 751 1947 787">3 項目別評価の具体的方法</p> <p data-bbox="1501 798 2831 875">(1) 項目別評価は、次の小項目、中項目、大項目に区分して行う。具体的な区分は別表のとおりとする。</p> <p data-bbox="1561 886 2694 1014">① 小項目は、③の大項目に係る中期計画記載項目の<u>123</u>項目とする。 ② 中項目は、①の小項目に係る区分を踏まえ<u>46</u>項目とする。 ③ 大項目は、中期目標の区分を踏まえ<u>12</u>項目とする。</p> <p data-bbox="1501 1066 1635 1102">(2) 略</p> <p data-bbox="1501 1155 1739 1190">4・5・6 略</p> <p data-bbox="1516 1243 1614 1278">(新設)</p>

公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間の業務実績評価実施要領

平成27年6月12日

山梨県公立大学法人評価委員会決定

令和 年 月 日改正

「公立大学法人山梨県立大学の業務実績に関する評価基本方針」に基づき、山梨県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う公立大学法人山梨県立大学（以下「法人」という。）の中期目標期間における業務の実績に関する評価（以下「中期目標期間評価」という。）の実施について必要な事項を定める。

1 評価の方針

- (1) 中期目標期間評価は、法人の自己点検・評価に基づいて行うことを基本とする。
- (2) 中期目標期間評価は、中期目標期間の最終年度までの事業の推移を踏まえ、中期目標期間終了後に、中期計画の実施状況を調査・分析し、総合的に評価する。
- (3) 中期目標期間評価において、教育研究に関しては地方独立行政法人法第79条の規定に基づき、認証評価機関の評価を踏まえて評価する。
- (4) 中期目標期間評価の際、法人の取組を社会に積極的にアピールすることや、法人全体の改善・充実を図る観点から、以下の事項を考慮する。
 - ① 法人化を契機とした機動的・戦略的な大学運営の実現に向けた取組を積極的に評価する。
 - ② 法人の置かれている状況や条件等を踏まえた、法人運営や教育研究活動を円滑に進めるための様々な工夫についても積極的に評価する。
 - ③ 中期目標の達成に向けて支障が生じた場合には、その理由（外的要因を含む）についても明らかにするものとする。
 - ④ その他法人を取り巻く諸事情を考慮するものとする。
- (5) 中期目標期間評価の際には、事前評価の結果及び必要に応じて実施済みの年度評価を参考にすることができる。

2 評価の方法

- (1) 中期目標期間評価は、「項目別評価」と「全体評価」により行う。
- (2) 「項目別評価」は、中期計画について法人が自己点検・評価を行い、これをもとに、評価委員会において検証・評価を行う。
- (3) 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえつつ、中期目標の達成状況全体について、総合的に評価する。
- (4) 評価委員会が評価結果を決定する際には、評価（案）を法人に示すとともに、評価（案）に対する法人からの意見申し出の機会を設ける。

(案)

3 項目別評価の具体的方法

(1) 項目別評価は、次の小項目、中項目、大項目に区分して行う。具体的な区分は別表のとおりとする。

- ① 小項目は、③の大項目に係る中期計画記載項目の 5 5 項目とする。
- ② 中項目は、①の小項目に係る区分を踏まえ 3 2 項目とする。
- ③ 大項目は、中期目標の区分を踏まえ 1 1 項目とする。

(2) 項目別評価は次の手順で行う。

① 法人による自己点検・評価

- 法人は、以下の基準により、小項目ごとに中期計画にかかる業務実績を I～IV の4段階で自己評価し、中期計画にかかる取組実績、目標の達成状況及び判断理由等を記述した業務実績報告書を作成する。

なお、法人は、中期計画に対する進捗状況という視点から自己点検・評価を行うこととする。よって、各年度計画は順調に推移していたとしても、中期計画のすべての項目が網羅されていない場合などは評価が低くなるため、これまでの年度計画の評価がそのまま中期計画にかかる自己評価となるわけではないので注意する。

[小項目評価]

IV：中期計画を上回って達成している

III：中期計画を十分に達成している

II：中期計画を十分には達成していない

I：中期計画を大幅に下回った、又は実施していない

- 大項目ごとに特記事項として以下の項目を記載する。
 - ア 法人化のメリットを活用し、大学運営の活性化などを目指した財政、組織、人事などの面での特色ある取組や中期計画には記載していないが精力的に実施した取組
 - イ 法人の置かれている状況や条件等を踏まえた、大学運営を円滑に進めるための様々な工夫
 - ウ 中期目標の未達成な事項の状況や、達成に向けて支障が生じた場合は、その状況、理由（外的要因を含む）など
 - 業務実績報告書の記載に当たっては、できる限り客観的な情報・データを用いて具体的に記載する。
 - 評価の際に参考となる資料があれば、必要に応じて添付する。
- ② 評価委員会による法人の小項目にかかる自己点検・評価の検証
- 評価委員会は、業務実績報告書に基づき、法人からのヒアリング等を通じ、業務

(案)

の実績等について調査・分析の上、法人の自己点検・評価を検証する。

③ 評価委員会による中項目及び大項目にかかる評価

業務実績報告書の検証を踏まえ、中項目及び大項目ごとの達成状況について、次のとおりS～Dの5段階で評価するとともに、その判断理由のほか、特筆すべき点や遅れている点についての意見を記述する。

[大項目、中項目評価]

S：中期目標の達成状況が非常に優れている

A：中期目標の達成状況が良好である

B：中期目標の達成状況がおおむね良好である

C：中期目標の達成状況がやや不十分である

D：中期目標の達成状況が不十分であり、法人の組織・業務等の見直しが必要である

4 全体評価の具体的方法

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況等について、記述式により総合的に評価を行う。また、必要に応じて運営の改善その他にかかる提言や勧告を行う。

5 中期目標期間評価のスケジュール

基本的に次のスケジュールにより実施する。

- | | |
|---------|--|
| 6 月末日まで | ・法人は業務実績報告書を評価委員会に提出 |
| 7 月～8 月 | ・評価委員会による業務実績報告書の調査・分析(ヒアリング含む)
・評価委員会による評価案の策定
・評価案に対して法人からの意見申し出の機会の設定
・評価結果の決定、法人への通知、知事への報告 |
| 9 月 | ・評価結果を知事から議会への報告、公表 |

6 その他

- (1) 中期目標期間評価に係る業務実績報告書及び評価書の様式は、別紙のとおりとする。
- (2) 本実施要領を踏まえつつ、具体的な評価方法等については必要に応じ修正を加えるものとする。

また、本実施要領については、中期目標期間評価の実施結果等を踏まえ、見直し・改善を図るものとする。

附 則

(施行期日)

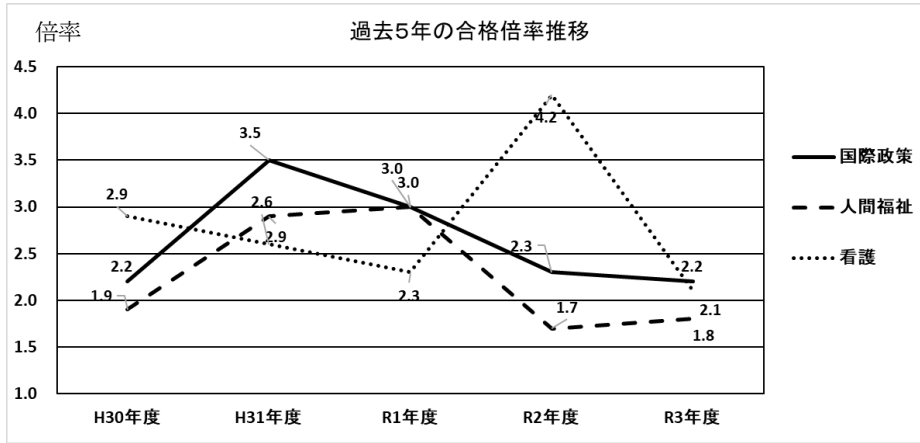
この要領は、令和4年 月 日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

令和4年度入学者選抜試験の結果及び令和3年度卒業生の就職状況 概要

(1) 令和4年度入学者選抜試験

学部	募集人員 (A)	出願者数 (B)		出願倍率 (B/A)	受験者数 (C)	受験倍率 (C/A)		合格者数 (D)	合格倍率 (C/D)		入学者	入学者				
		県内	県外			男	女		県内	県外		男	女			
国際政策学部	80	274	100	109	3.4	246	93	99	3.1	114	44	40	2.2	90	40	31
			174	165			153	147			70	74			50	59
人間福祉学部	80	257	139	57	3.2	165	107	38	2.1	93	58	21	1.8	87	55	18
			118	200			58	127			35	72			32	69
看護学部	100	297	166	30	3.0	233	135	24	2.3	109	72	10	2.1	102	71	10
			131	267			98	209			37	99			31	92
合計	260	828	405	196	3.2	644	335	161	2.5	316	174	71	2.0	279	166	59
			423	632			309	483			142	245			113	220

3年次編入学	20	22	10	10	1.1	21	10	10	1.1	10	5	5	2.1	8	3	5
			12	12			11	11			5	5			5	3
看護研究科 博士前期課程	10	6	4	0	0.6	6	4	0	0.6	5	3	0	1.2	5	3	0
			2	6			2	6			2	5			2	5
看護研究科 博士後期課程	3	4	2	1	1.3	4	2	1	1.3	4	2	1	1.0	4	2	1
			2	3			2	3			2	3			2	3



(2) 卒業生の就職状況

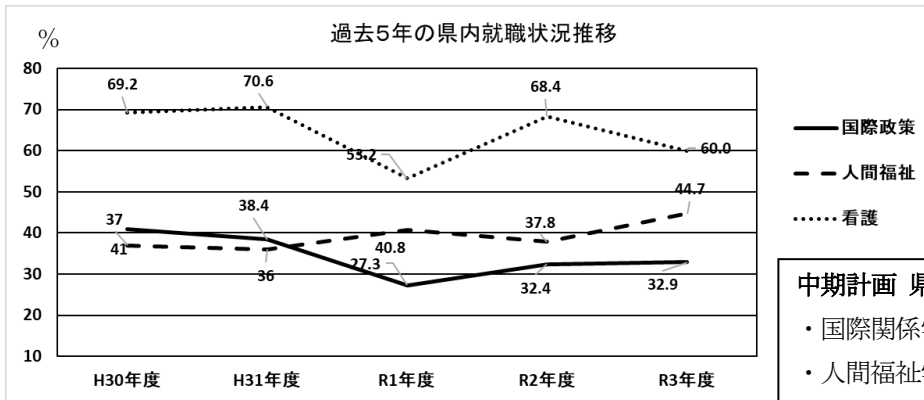
①令和4年3月卒業生の就職状況

	卒業生数	就職希望者数 (A)	就職者数 (B)	内定率 (B/A×100)	進学者	その他、就職意思なし	(参考) 誓へ内々定件数
国際政策学部	92	88	85	96.6%	2	2	127
人間福祉学部	81	79	76	96.2%	0	2	83
看護学部	98	95	95	100.0%	2	1	117
合計	271	262	256	97.7%	4	5	327

②令和4年3月卒業生の就職先県内県外別内訳

(就職決定者)	就職者総数 (C)	県内就職			県外就職			
		県内就職者	(C)に占める割合 (うち県内出身者)	(うち県外出身者)	県外就職者	(C)に占める割合 (うち県内出身者)	(うち県外出身者)	
国際政策学部	85	28	32.9%	22	6	67.1%	11	46
人間福祉学部	76	34	44.7%	26	8	55.3%	7	35
看護学部	95	57	60.0%	56	1	40.0%	6	32
合計	256	119	46.5%	104	15	53.5%	24	113

※勤務地で振り分け (未定の場合は所在地)



中期計画 県内就職率目標値

- ・国際関係学部：45%以上
- ・人間福祉学部：50%以上
- ・看護学部：55%以上

令和4年度 山梨県立大学入学試験実施状況(4.3.31)

資料4-2

区分	学部	学科	募集人員(A)	出願者数(B)	出願者数(B/A)		受験者数(C)	受験者数(C/A)		合格者数(D)	合格者数(C/D)		入学者	入学者				
					県内	男女		県内	男女		県内	男女		県内	男女			
一般選抜	前期	国際政策学部	総合政策学科	24	79	25	38	3.3	69	22	32	2.9	40	11	16	32	10	13
			国際コミュニケーション学科	24	72	54	41	3.0	55	14	21	2.3	40	7	13	35	7	11
		人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	34	73	36	47	2.1	63	33	20	1.9	41	19	14	37	17	12
			人間形成学科	16	33	12	4	2.1	27	10	3	1.7	22	9	2	21	9	2
		看護学部	看護学科	50	130	49	16	2.6	126	49	16	2.5	56	25	7	49	24	7
		前期計		148	387	139	104	2.6	340	128	92	2.3	199	71	52	174	67	45
	後期	国際政策学部	総合政策学科	5	47	14	20	9.4	47	14	20	9.4	5	2	1	0	0	0
			国際コミュニケーション学科	5	44	12	17	8.8	44	12	17	8.8	6	1	3	0	0	0
		人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	2	67	27	22	33.5	15	6	6	7.5	2	2	2	1	1	1
			人間形成学科	2	29	10	1	14.5	5	4	0	2.5	2	2	0	2	2	0
		看護学部	看護学科	5	94	44	10	18.8	34	13	4	6.8	8	2	1	8	2	1
		後期計		19	281	107	70	14.8	145	49	47	7.6	23	9	7	11	5	2
一般選抜計		167	668	246	174	4.0	485	177	139	2.9	222	80	59	185	72	47		
学校推薦型選抜	国際政策学部	総合政策学科	11	13	13	4	1.2	12	12	4	1.1	11	11	4	11	11	4	
		国際コミュニケーション学科	11	18	18	5	1.6	18	18	5	1.6	11	11	3	11	11	3	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	14	32	32	6	2.3	32	32	6	2.3	14	14	3	14	14	3	
		人間形成学科	12	22	22	2	1.8	22	22	2	1.8	12	12	0	12	12	0	
	看護学部	看護学科	45	72	72	4	1.6	72	72	4	1.6	45	45	2	45	45	2	
	学校推薦型選抜計		93	157	157	21	1.7	156	156	21	1.7	93	93	12	93	93	12	
特別選抜	国際政策学部	総合政策学科	若干名	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	
		国際コミュニケーション学科	若干名	1	1	0	-	1	1	0	-	1	1	0	1	1	0	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	若干名	1	0	1	-	1	0	1	-	0	0	0	0	0	0	
		人間形成学科	若干名	0	0	0	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	
	看護学部	看護学科	若干名	1	1	0	-	1	1	0	-	0	0	0	0	0	0	
	特別選抜計		若干名	3	2	1	-	3	2	1	-	1	1	0	1	1	0	
合計	国際政策学部	総合政策学科	40	139	52	62	3.5	128	48	56	3.2	56	24	21	43	21	17	
		国際コミュニケーション学科	40	135	87	77	3.4	118	80	72	3.0	58	32	35	47	22	26	
		学部計	80	274	139	139	3.4	246	128	128	3.1	114	56	56	90	43	43	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	50	173	95	50	3.5	111	71	33	2.2	57	35	19	52	32	16	
		人間形成学科	30	84	44	7	2.8	54	36	5	1.8	36	23	2	35	23	2	
		学部計	80	257	139	57	3.2	165	107	38	2.1	93	58	21	87	55	18	
	看護学部	看護学科	100	297	166	30	3.0	233	135	24	2.3	109	72	10	102	71	10	
	合計		260	828	405	196	3.2	644	335	161	2.5	316	174	71	279	166	59	

区分	学部	学科	募集人員(A)	志願者数(B)	出願者数(B/A)		受験者数(C)	受験者数(C/A)		合格者数(D)	合格者数(C/D)		入学者	入学者			
					県内	男女		県内	男女		県内	男女		県内	男女		
3年次編入学	国際政策学部	総合政策学科	5	9	6	5	1.8	9	6	5	1.8	4	2	2	3	1	2
		国際コミュニケーション学科	5	12	3	5	2.4	11	3	5	2.2	5	2	3	4	1	3
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	5	1	1	0	0.2	1	1	0	0.2	1	1	0	1	0	1
		人間形成学科	5	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0	0	0	0	0	0	0
	合計		20	22	10	10	1.1	21	10	10	1.1	10	5	5	8	3	5

区分	課程	募集人員(A)	志願者数(B)	出願者数(B/A)		受験者数(C)	受験者数(C/A)		合格者数(D)	合格者数(C/D)		入学者	入学者			
				県内	男女		県内	男女		県内	男女		県内	男女		
大学院入試	看護研究科	博士前期課程	10	6	4	0	0.6	6	4	0	0.6	5	3	0	5	3
		博士後期課程	3	4	2	1	1.3	4	2	1	1.3	4	2	1	4	2
	合計		13	10	6	1	0.8	10	6	1	0.8	9	5	1	9	5

山梨県立大学 入学状況推移(各年度4月1日)

○1年次入学生

区分	学部	学科	平成30年度				令和元年度				令和2年度				令和3年度				令和4年度									
			入学者		入学者		入学者		入学者		入学者		入学者		入学者		入学者											
			人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合										
一般選抜	国際政策学部	総合政策学科	40	11	27.5%	29	72.5%	27	9	33.3%	18	66.7%	30	12	40.0%	18	60.0%	35	16	45.7%	19	54.3%	32	10	31.3%	22	68.8%	
		国際コミュニケーション学科	36	10	27.8%	26	72.2%	29	5	17.2%	24	82.8%	29	9	31.0%	20	69.0%	37	9	24.3%	28	75.7%	35	7	20.0%	28	80.0%	
		学部計	76	21	27.6%	55	72.4%	56	14	25.0%	42	75.0%	59	21	35.6%	38	64.4%	72	25	34.7%	47	65.3%	67	17	25.4%	50	74.6%	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	40	10	25.0%	30	75.0%	37	14	37.8%	23	62.2%	36	13	36.1%	23	63.9%	35	14	40.0%	21	60.0%	37	17	45.9%	20	54.1%	
		人間形成学科	19	6	31.6%	13	68.4%	21	6	28.6%	15	71.4%	22	3	13.6%	19	86.4%	18	7	38.9%	11	61.1%	21	9	42.9%	12	57.1%	
		学部計	59	16	27.1%	43	72.9%	58	20	34.5%	38	65.5%	58	16	27.6%	42	72.4%	53	21	39.6%	32	60.4%	58	26	44.8%	32	55.2%	
	看護学部	看護学科	50	16	32.0%	34	68.0%	50	14	28.0%	36	72.0%	50	14	28.0%	36	72.0%	50	16	32.0%	34	68.0%	49	24	49.0%	25	51.0%	
		前期計	185	53	28.6%	132	71.4%	164	48	29.3%	116	70.7%	167	51	30.5%	116	69.5%	175	62	35.4%	113	64.6%	174	67	38.5%	107	61.5%	
	後期	国際政策学部	総合政策学科	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-
			国際コミュニケーション学科	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-
			学部計	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-
		人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	2	0	0.0%	2	100.0%	2	1	50.0%	1	50.0%	1	0	0.0%	1	100.0%	2	1	50.0%	1	50.0%	1	1	100.0%	0	0.0%
人間形成学科			2	0	0.0%	2	100.0%	2	1	50.0%	1	50.0%	1	0	0.0%	1	100.0%	1	1	100.0%	0	0.0%	2	2	100.0%	0	0.0%	
看護学部		看護学科	5	2	40.0%	3	60.0%	5	0	0.0%	5	100.0%	5	0	0.0%	5	100.0%	5	4	80.0%	1	20.0%	8	2	25.0%	6	75.0%	
	後期計	9	2	22.2%	7	77.8%	9	2	22.2%	7	77.8%	7	0	0.0%	7	100.0%	8	6	75.0%	2	25.0%	11	5	45.5%	6	54.5%		
一般選抜計		194	55	28.4%	139	71.6%	173	50	28.9%	123	71.1%	174	51	29.3%	123	70.7%	183	68	37.2%	115	62.8%	185	72	38.9%	113	61.1%		
学校推薦型選抜	国際政策学部	総合政策学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	100.0%	0	0.0%	11	11	100.0%	0	0.0%	
		国際コミュニケーション学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	100.0%	0	0.0%	11	11	100.0%	0	0.0%	
		学部計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	22	100.0%	0	0.0%	22	22	100.0%	0	0.0%	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	14	100.0%	0	0.0%	14	14	100.0%	0	0.0%	
		人間形成学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	12	100.0%	0	0.0%	12	12	100.0%	0	0.0%	
	看護学部	看護学科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	45	45	100.0%	0	0.0%	45	45	100.0%	0	0.0%	
学校推薦選抜計		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	93	93	100.0%	0	0.0%	93	93	100.0%	0	0.0%		
特別選抜	国際政策学部	総合政策学科	12	12	100.0%	0	0.0%	13	12	92.3%	1	7.7%	11	11	100.0%	0	0.0%	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	
		国際コミュニケーション学科	12	12	100.0%	0	0.0%	14	12	85.7%	2	14.3%	12	11	91.7%	1	8.3%	0	0	-	0	-	1	1	100.0%	0	0.0%	
		学部計	24	24	100.0%	0	0.0%	27	24	88.9%	3	11.1%	23	22	95.7%	1	4.3%	0	0	-	0	-	1	1	-	0	-	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	14	14	100.0%	0	0.0%	14	14	100.0%	0	0.0%	14	14	100.0%	0	0.0%	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	
		人間形成学科	10	10	100.0%	0	0.0%	10	10	100.0%	0	0.0%	10	10	100.0%	0	0.0%	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	
	看護学部	看護学科	45	45	100.0%	0	0.0%	45	45	100.0%	0	0.0%	45	45	100.0%	0	0.0%	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	
特別選抜計		93	93	100.0%	0	0.0%	96	93	96.9%	3	3.1%	92	91	98.9%	1	1.1%	0	0	-	0	-	1	1	100.0%	0	0.0%		
合計	国際政策学部	総合政策学科	52	23	44.2%	29	55.8%	40	21	52.5%	19	47.5%	41	23	56.1%	18	43.9%	46	27	58.7%	19	41.3%	43	21	48.8%	22	51.2%	
		国際コミュニケーション学科	48	22	45.8%	26	54.2%	43	17	39.5%	26	60.5%	41	20	48.8%	21	51.2%	48	20	41.7%	28	58.3%	47	19	40.4%	28	59.6%	
		学部計	100	45	45.0%	55	55.0%	83	38	45.8%	45	54.2%	82	43	52.4%	39	47.6%	94	47	50.0%	47	50.0%	90	40	44.4%	50	55.6%	
	人間福祉学部	福祉コミュニティ学科	56	24	42.9%	32	57.1%	53	29	54.7%	24	45.3%	51	27	52.9%	24	47.1%	51	29	56.9%	22	43.1%	52	32	61.5%	20	38.5%	
		人間形成学科	31	16	51.6%	15	48.4%	33	17	51.5%	16	48.5%	33	13	39.4%	20	60.6%	31	20	64.5%	11	35.5%	35	23	65.7%	12	34.3%	
	看護学部	看護学科	100	63	63.0%	37	37.0%	100	59	59.0%	41	41.0%	100	59	59.0%	41	41.0%	100	65	65.0%	35	35.0%	102	71	69.6%	31	30.4%	
合計		287	148	51.6%	139	48.4%	269	143	53.2%	126	46.8%	266	142	53.4%	124	46.6%	276	161	58.3%	115	41.7%	279	166	59.5%	113	40.5%		

2022年3月卒業の学生の就職状況

	卒業者数	就職希望者数(A)	内定者実数(B)	内定率(B/A×100)	(参考)前年3月末	進学希望者	その他、就職意思なし	(参考)延べ内定件数	(参考)延べ内定件数(前年度3月末)
国際政策学部	92	88	85	96.6%	90.7%	2	2	127	106
総合政策学科	52	51	49	96.1%	81.8%	1	0	66	44
国際コミュニケーション学科	40	37	36	97.3%	97.6%	1	2	61	62
人間福祉学部	81	79	76	96.2%	97.4%	0	2	83	87
福祉コミュニティ学科	55	53	50	94.3%	96.1%	0	2	55	58
人間形成学科	26	26	26	100.0%	100.0%	0	0	28	29
看護学部	98	95	95	100.0%	100.0%	2	1	117	117
看護学科	98	95	95	100.0%	100.0%	2	1	117	117
合計	271	262	256	97.7%	96.4%	4	5	327	310

(就職決定者)

	就職者総数(C)	県内就職			県外就職			
		県内就職者	(C)に占める割合	(うち県内出身者)	県外就職者	(C)に占める割合	(うち県外出身者)	
国際政策学部	85	28	32.9%	22	6	67.1%	11	46
男	35	8	22.9%	5	3	77.1%	4	23
女	50	20	40.0%	17	3	60.0%	7	23
総合政策学科	49	16	32.7%	13	3	67.3%	7	26
男	24	6	25.0%	5	1	75.0%	3	15
女	25	10	40.0%	8	2	60.0%	4	11
国際コミュニケーション学科	36	12	33.3%	9	3	66.7%	4	20
男	11	2	18.2%	0	2	81.8%	1	8
女	25	10	40.0%	9	1	60.0%	3	12
人間福祉学部	76	34	44.7%	26	8	55.3%	7	35
男	9	3	33.3%	0	3	66.7%	0	6
女	67	31	46.3%	26	5	53.7%	7	29
福祉コミュニティ学科	50	20	40.0%	15	5	60.0%	4	26
男	8	2	25.0%	0	2	75.0%	0	6
女	42	18	42.9%	15	3	57.1%	4	20
人間形成学科	26	14	53.8%	11	3	46.2%	3	9
男	1	1	100.0%	0	1	0.0%	0	0
女	25	13	52.0%	11	2	48.0%	3	9
看護学部	95	57	60.0%	56	1	40.0%	6	32
看護学科	95	57	60.0%	56	1	40.0%	6	32
男	7	5	71.4%	5	2	28.6%	0	2
女	88	52	59.1%	51	1	40.9%	6	30
合計	256	119	46.5%	104	15	53.5%	24	113

※勤務地で振り分け(未定の場合は所在地)

※ 下表は入力不要(計算式が入っています)

就職先県内県外別内訳(就職決定者・詳細版)				県内就職	(県内就職者に占める出身者の割合)	県外就職	(県外就職者に占める出身者の割合)	進路未提出数(B)-(C) %は歩留まり率
	決定者数(C)	出身地別内訳						
国際政策学部	85	学部計	85	28	100.0%	57	100.0%	0
県内決定者	28	県内出身者	33	22	78.6%	11	19.3%	66.7%
県外決定者	57	県外出身者	52	6	21.4%	46	80.7%	
総合政策学科	49	学科計	49	16	100.0%	33	100.0%	0
県内決定者	16	県内出身者	20	13	81.3%	7	21.2%	65.0%
県外決定者	33	県外出身者	29	3	18.8%	26	78.8%	
国際コミュニケーション学科	36	学科計	36	12	100.0%	24	100.0%	0
県内決定者	12	県内出身者	13	9	75.0%	4	16.7%	69.2%
県外決定者	24	県外出身者	23	3	25.0%	20	83.3%	
人間福祉学部	76	学部計	76	34	100.0%	42	100.0%	0
県内決定者	34	県内出身者	33	26	76.5%	7	16.7%	78.8%
県外決定者	42	県外出身者	43	8	23.5%	35	83.3%	
福祉コミュニティ学科	50	学科計	50	20	100.0%	30	100.0%	0
県内決定者	20	県内出身者	19	15	75.0%	4	13.3%	78.9%
県外決定者	30	県外出身者	31	5	25.0%	26	86.7%	
人間形成学科	26	学科計	26	14	100.0%	12	100.0%	0
県内決定者	14	県内出身者	14	11	78.6%	3	25.0%	78.6%
県外決定者	12	県外出身者	12	3	21.4%	9	75.0%	
看護学部	95	学部計	95	57	100.0%	38	100.0%	0
看護学科	95	県内出身者	62	56	98.2%	6	15.8%	90.3%
県外決定者	38	県外出身者	33	1	1.8%	32	84.2%	
全体合計	256		256	119		137		0
県内合計	119	県内出身者	104			15	12.6%	
県外合計	137	県内出身者	24			113	82.5%	
山梨県出身者合計	128	県内就職者	104	81.3%	県外就職者	24	18.8%	

R4.3卒 業種別就職状況

	国際政策学部		人間福祉学部			看護学部	就職者			就職割合	
	総合政策学科	国際コミュニケーション学科	福祉コミュニティ学科	人間形成学科	県内就職		県外就職				
公務員	7	4	3	30	17	13	6	43	5	18	16.8%
製造業	10	4	6	0	0	0	0	10	5	5	3.9%
情報通信業	10	6	4	1	1	0	0	11	1	10	4.6%
商社・卸・小売業	22	11	11	0	0	0	0	22	9	13	9.2%
金融・保険業	5	4	1	0	0	0	0	5	1	4	2.1%
不動産業・物品賃貸	1	1	0	1	1	0	0	2	0	2	0.8%
学術研究、専門・技術サービス業	3	3	0	0	0	0	0	3	1	2	1.3%
宿泊業、飲食サービス業	4	1	3	0	0	0	0	4	1	3	1.7%
生活関連サービス業、娯楽業	4	3	1	1	1	0	0	5	1	4	2.1%
医療・福祉業	1	1	0	41	30	11	89	131	79	60	54.6%
サービス業	4	2	2	0	0	0	0	4	1	3	1.7%
複合サービス業	2	1	1	0	0	0	0	2	2	0	0.8%
教育・学習支援業	4	2	2	2	0	2	0	6	10	8	2.5%
建設業	5	4	1	0	0	0	0	5	1	4	2.1%
運輸業	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0	0.4%
電気ガス熱供給水道業	2	2	0	0	0	0	0	2	1	1	0.8%
農林漁業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
鉱業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
上記以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
合計	85	49	36	76	50	26	95	256	119	137	100%

※公務員に教員、保育士、保健師、警察官を含む

令和3年度(令和4年3月卒業)

	卒業生数	就職者数	比率	県内就職者数	県外就職者数	県内就職率	県外就職率
国際政策学部	92	85	100.0%	28	57	32.9%	67.1%
県内出身者	36	33	38.8%	22	11	66.7%	33.3%
県外出身者	56	52	61.2%	6	46	11.5%	88.5%
人間福祉学部	81	76	100.0%	34	42	44.7%	55.3%
県内出身者	38	33	43.4%	26	7	78.8%	21.2%
県外出身者	43	43	56.6%	8	35	18.6%	81.4%
看護学部	98	95	100.0%	57	38	60.0%	40.0%
県内出身者	63	62	65.3%	56	6	90.3%	9.7%
県外出身者	35	33	34.7%	1	32	3.0%	97.0%
合計	271	256	100.0%	119	137	46.5%	53.5%
県内出身者	137	128	50.0%	104	24	81.3%	18.8%
県外出身者	134	128	50.0%	15	113	11.7%	88.3%

令和2年度(令和3年3月卒業)

	卒業生数	就職者数	比率	県内就職者数	県外就職者数	県内就職率	県外就職率
国際政策学部	86	68	100.0%	22	46	32.4%	67.6%
県内出身者	35	28	41.2%	15	13	53.6%	46.4%
県外出身者	51	40	58.8%	7	33	17.5%	82.5%
人間福祉学部	82	74	100.0%	28	46	37.8%	62.2%
県内出身者	37	33	44.6%	22	11	66.7%	33.3%
県外出身者	45	41	55.4%	6	35	14.6%	85.4%
看護学部	104	98	100.0%	67	31	68.4%	31.6%
県内出身者	65	62	63.3%	59	3	95.2%	4.8%
県外出身者	39	36	36.7%	8	28	22.2%	77.8%
合計	272	240	100.0%	117	123	48.8%	51.3%
県内出身者	137	123	51.3%	96	27	78.0%	22.0%
県外出身者	135	117	48.8%	21	96	17.9%	82.1%

令和元年度(令和2年3月卒業)

	卒業生数	就職者数	比率	県内就職者数	県外就職者数	県内就職率	県外就職率
国際政策学部	92	88	100.0%	24	64	27.3%	72.7%
県内出身者	43	40	45.5%	19	21	47.5%	52.5%
県外出身者	49	48	54.5%	5	43	10.4%	89.6%
人間福祉学部	83	76	100.0%	31	45	40.8%	59.2%
県内出身者	42	38	50.0%	22	16	57.9%	42.1%
県外出身者	41	38	50.0%	9	29	23.7%	76.3%
看護学部	98	94	100.0%	50	44	53.2%	46.8%
県内出身者	59	58	61.7%	46	12	79.3%	20.7%
県外出身者	39	36	38.3%	4	32	11.1%	88.9%
合計	273	258	100.0%	105	153	40.7%	59.3%
県内出身者	144	136	52.7%	87	49	64.0%	36.0%
県外出身者	129	122	47.3%	18	104	14.8%	85.2%

平成30年度(平成31年3月卒業)

	卒業生数	就職者数	比率	県内就職者数	県外就職者数	県内就職率	県外就職率
国際政策学部	77	73	100.0%	28	45	38.4%	61.6%
県内出身者	45	42	57.5%	24	18	57.1%	42.9%
県外出身者	32	31	42.5%	4	27	12.9%	87.1%
人間福祉学部	95	89	100.0%	32	57	36.0%	64.0%
県内出身者	43	39	43.8%	26	13	66.7%	33.3%
県外出身者	52	50	56.2%	6	44	12.0%	88.0%
看護学部	106	102	100.0%	72	30	70.6%	29.4%
県内出身者	79	76	74.5%	67	9	88.2%	11.8%
県外出身者	27	26	25.5%	5	21	19.2%	80.8%
合計	278	264	100.0%	132	132	50.0%	50.0%
県内出身者	167	157	59.5%	117	40	74.5%	25.5%
県外出身者	111	107	40.5%	15	92	14.0%	86.0%